

松原 賢

■ 略歴

- 1948 富山県上市に生まれる
1973 独立美術(東京都美術館)
1976 井上三綱に師事
1977 第一美術展(東京都美術館) 第一美術賞
1987 上野の森美術館絵画大賞展(上野の森美術館) 特別優秀賞
1990 次代をになう作家展(箱根彫刻の森美術館)
2001 栃木県美術の二十世紀 千年の扉(栃木県立美術館)
2006 Ken MATSUBARA technique mixte(エスパス・ベルタン・ボワレギャラリー)パリ、フランス
KEN MATSUBARA EXHIBITION(TKW20ギャラリー)ケルン・ドイツ
2008 「松原賢一生々流転」(主催:富山近代美術館/富山県)
2011 林屋晴三氏より一年間茶席の床掛けを依頼される
2019 「松原賢-日月空海-」(銀座和光ホール)
KUKAISEN AND MON (NY一穂堂) ニューヨーク
襖絵「日月空海図-弦月-」フィラデルフィア美術館収蔵蔵 ベンシルベニア
2022 「白道 Chaos to the Cosmos」(NY一穂堂) ニューヨーク
六曲一双屏風「カオス」ミネアポリス美術館収蔵蔵 ミネソタ
その他、全国各地で個展、グループ展等、多数

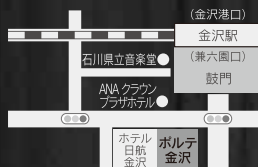
■ 作品収蔵

茅ヶ崎文化会館・上野の森美術館・富山県美術館・フジヤマミュージアム
富山県芸術文化ホール・土岐市文化プラザ・広島大学・宇都宮市城山地区市民センター
フィラデルフィア美術館・ミネアポリス美術館

2022年

7月8日(金)~26日(火)
12:00~17:00(水・木曜休廊)

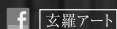
作家在廊:8日(金)・9日(土)・10日(日)・26日(火)



アート
玄 羅
g e n r a

〒920-0853 金沢市本町2丁目15-1 ボルテ金沢3F [ホテル日航金沢横]
TEL/FAX 076-255-0988 E-mail genraart@ozzio.jp

Web [www://genraart.com](http://www.genraart.com)



国の新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインに沿い、鑑賞環境には十分気をつけてまいります。会期中、時短営業・臨時休業・入廊制限する場合がございます。

松原賢展 蓮華 渴仰



「白蓮」 90×75cm

アート
玄 羅
g e n r a

朝露を承け黎明の蓮の神々しい情景に、心打たれます。 松原 賢



「霞光」 182×65cm



「散華」 40×40cm



「承露」 40×40cm

「蓮」に寄せて

若くして逝った妻の棺に入れたのは、一本の赤い蓮の華が咲く写真だった。深い悲嘆の底なしの沼の中。世俗の泥の中から出立した魂の行き先に、せめて、仏がおわす蓮華座の清らかさと静けさがあるという極楽浄土を託した思いだったのかもしれない。

「泥中の蓮華」は、仏の世界に限らず、今を生きる人の世の在り方をも言うのだろうが、清らかな蓮華の美の純粹さに、人はただ魅了されるに違いない。蓮は、人にとって特別な植物であり、精神を潤す意匠であると思う。古来の絵画だけではなく、李朝の焼きものにあるような清廉な蓮の画を見ても、人が蓮華に寄せる様々な心の拠りどころを見る思いがする。

昨年、松原賢さんは石川県羽咋市の日蓮宗の古刹妙法寺から「日蓮図」の襖絵を依頼され、幽玄な世界観を示した。仏縁あればこそその仕事であるが、この画家の来た道を思えば、不思議はない。

蓮を主題に選んだ今回の個展は、蓮尽くしの壮観である。華の美しさを通した透明な宇宙、ロータス効果と呼ばれる撥水性の葉が弾く水玉の軽やかな空気。どの画家も、一つの精神世界を描こうとすると、伝統の強い、使い古された凡庸な図像に陥る危険性があるが、ここには、そんな憂慮は一切ない。ただ佇まず、歩み続けることは難しいことだが、七十歳を越え、悲喜こもごも、すべてを心の中に含有して生きている画家の今の心眼を知る思いがするのだ。

人は悲しいときも、うれしいときも、花に心の空間を託す。描かれた蓮は、彼我の世をのみ込む美として昇華している。

画廊主